

1 チーム名 (研究対象領域・教科)

小学部 さんすう

2 メンバー 小学部教員6名

3 チームのテーマ

○「かず」を日常生活に生かしていくための支援について

4 対象児童生徒に願う主体的な姿

A児：自分からかずを数えようとする事ができる。

生活に生かすことができる！

5 研究仮説

A児：かずを正確に数唱できれば、自分から進んでかずを数えたり、自分のほしいかずを相手に伝え、取ったり、もらったりすることができるのではないかな？

6 研究実践

実践：声に出して、具体物を数えることを繰り返し行ってきた。

並んでいる具体物を、順番に、指をさして数えることが難しかった。1つ飛ばしたり、同じところをもう一度数えたりしてしまう。「1」は確実に「いち」と言えるが、「いち、なな、ご・・・」など、思いついた言葉を唱えるような様子だった。

改善：給食当番の場面で牛乳が並んでいる状態から、かごに入れる「動作」と一緒に数を数えてみてはどうか。動きと、「いち」「に」・・・という数唱を一緒にすることで、「数えること」の印象を強めてみてはどうか。必要な本数(6本)がぴったり入るかごを用意した。

成果・変容

・ひまわりの芽が出たことに喜び、何気なく、自分から数え始めた。かずに関心が出たようだ。(7月上旬)



<ひまわりの芽>

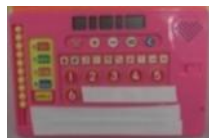
・動きを伴ったことで、「数えること」「動きと一緒に声を出すこと」が、身に付いてきた(慣れてきた)ようだ。(9月上旬)
・数えながら、牛乳をかごに入れることができた。

実践：あやふやだが、数唱しながら正しい

本数(6本)をかごに入れることができた。そこで、牛乳が最大で9本入るかごに変更した。予想通り、何も疑わずに、かごに敷き詰めて9本持って来た。数唱しているが、相変わらず、「いち、ご、さん・・・」などと、あやふやである。

<6本入るかご>

改善：かごではなく、買い物袋を使用すれば、配置が分からないので、正しく数を数える必要性がでるのでは。自分では、「いち、に、さん・・・」と、正しく数唱することができないので、音声教材を押すことで、自分で発声することの代替えにすればよいのでは。対象児は、買い物に行くことが好きなので、買い物袋を使用することを喜んでくれた。音声教材を使用することが、意欲付けにもなった。



<音声教材>
(市販の学習玩具)

・牛乳の本数を「数えている」のではなく、かごの配置を覚えてしまい、敷き詰めるだけになってしまっている。(9月下旬)



<9本入るかご>

・牛乳を買い物袋に入れるようにしたことで、正しく数える必要性が増し、一生懸命数えるようになった。最初の頃は、音声教材を1から順番に一つずつ押すことも難しかった。押して、聞く、押して、聞くことを何度も何度も繰り返すこと、さらに、「数える動き」を伴うことで、正しく数唱できるようになってきた。正しく言えるようになったことがうれしいので、日常生活や学習の中で、自分から進んでかずを数えようとする事が増えた。(10月～11月)

7 成果と課題

少人数での研修グループであったが、それぞれがそれぞれの課題を抱えているため、毎回の話し合いが盛り上がり深い話し合いができた。対象児の他にも、それぞれの日々の課題を話合うことで改善策やアイデアが出て有意義な研修ができた。日々の中で変容を伺えたことも成果につながったと考えられる。多くの目で観察できることでより自信を持って実践できることが大きな成果となった。今後も児童や授業を話題にした小さな話し合いを大切に授業を進めていきたい。

